

イエローカードとレッドカード

三 春

平日昼間のバスはガラ空きで、僅かに開けた窓から窓へと爽やかな風が吹き抜ける。前方の窓際に一人席が縦一列に並んでいるから、隣を気にする必要もないし、景色を楽しめる上にコロナ対策にもなっておりがたい。

八十年代後半と思しき二人のお婆さんがこの一人席に前後して座り、前席は後ろ向き、後席は前のめりになって賑やかなお喋りが始まった。互いの健康のこと、ご近所の噂話や悪口などで盛り上がり、だみ声と哄笑がバス中に響き渡る。周りがひっそりしているだけに、その異様さがひととき目立つ。

車内アナウンスの声は虚しい。「車中ではマスク着用をお願いすると共に、会話を控えてくださるよう……」。何度も繰り返されたが一向に効き目なし。そのとき、最前列のお爺さんがすくと立ち上がった。「あんたたち静かにしなさいよ！ 他の人たちの迷惑ってことがわからんかね」。味方を得た運転手が遅ればせに「お客さん、さつきからアナウンス流してるでしょ。会社からもきつく言われてるし、困るんですよ」と気弱に追い討ちをかける。むっつりと押し黙った二人、周囲の冷たい視線と重苦しい沈黙。さぞや居心地悪かろう、次で降りるかなと思いきや、さにあらず。バスは終点に差しかかる。

と、他人事のように語る私にも似通った経験がある。十年以上前の参宮橋のラーメン屋での出来事。先輩のTさんに誘われてビールと餃子で談笑していたときだ。声が大きすぎると店員に注意されて、すみませんとしばらくはヒソヒソ話になるのだが、数分後にはまたイエローカード。三回目にはついにレッドカードが出た！

「閉店だから帰ってくれ」とのお達しだ。周りの客が残っていたところを見ると、閉店というのは追い出すための口実に違いない。

加齢とともに、テレビの音量が大きすぎる、話し声がやかましい、何度も同じことを話すな尋ねるな、と誰もが言われつけていることだろう。原因は聴力の低下と記憶力の減退なのだが、これって鍛えなおせる？